

*** 今日の健康 (10月) ***

< 地球温暖化と感染症 ① >

冬季の低温は、昆虫などの分布地域を決める重要な要因です。地球温暖化やヒートアイランド現象によって冬季の気温が上昇すると、さまざまな害虫の分布域が北方に拡大する可能性があります。人を刺したり噛んだり、感染症を媒介したり、あるいは見た目が不快などのさまざまな“衛生害虫”が、近年生息地域を広げていることが確認されています。

今後このシリーズで示す害虫はごく一部で、他にもその可能性が考えられる種類は数多くあります。これらの種類も含め、現象として分布拡大が確認されているだけで、気温上昇との因果関係がきちんと把握されている訳ではありませんが、その可能性は十分に考えられます。また、建築や生活様式の変化による建物内の冬季の温度上昇が、新たな屋内害虫の発生や分布拡大を助長している可能性もあります。

<セアカゴケグモ>

オーストラリア原産と考えられているクモで、コブラ毒に匹敵する毒をもっています。1995年に高石市や四日市市で発見されましたが、現在は大阪府や三重県以外に兵庫県、愛知県、京都府などでも発見されており、物資の移動に伴って分布が拡大した可能性が指摘されています。2005年には群馬県でも数匹が発見され、駆除されましたが、これは大阪府からの引越し荷物に紛れて運ばれたものと考えられています。低温に弱いといわれていますが、温暖化で冬の気温が上昇すると、より北方でも定着が可能になるかもしれません。

咬まれた時の症状

- ・はじめはチクッと針で刺したような痛みを感じます。
- ・やがて咬まれた部分のまわりが腫れて赤くなります。痛みはしだいに全身に広がります。
- ・悪化すると、多量の汗をかいたり、さむけ、はき気などがあらわれることもあります。
- ・通常は、数日から数ヶ月で回復する例が多く、咬まれても重症になることはほとんどありません。



咬まれた時の処置

- ・万が一クモに咬まれたら、余分の毒を流水や石けん水で洗いおとします。多少出血があっても、包帯や止血帯はしないほうが良いでしょう。
- ・できるだけ早く病院に行って治療を受けることが大切です。(病院には咬まれたクモを殺して持参してください。適切な治療につながります。)

生息場所

網を張って住みつき、繁殖するには、日当たりが良く、暖かいところで、昆虫や小動物などの餌が豊富にあるところ、巣を張る適当なすき間があるなどの条件が必要です。

- ・排水溝の側面やふたの裏
- ・花壇のまわりのブロックのくぼみや穴、プランターと壁とのすき間、うつ伏せの空の植木鉢の中
- ・芝生や植木あるいは水抜き管の内部
- ・墓石の花立てと線香立ての間や巻き石などのすき間
- ・自動販売機の裏、クーラー室外機の裏、浄化槽プロアーカバーの内部などの人工的な熱源の周り

庭仕事などで襟足、袖やズボンの裾のすき間から侵入されないように注意が必要です。帽子や自転車用のヘルメット、長靴など身につけるものを長い間屋外に置いていて、その間にクモが入りこんでしまうので着用する時には中や裏側を十分に点検することが必要です。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏